

市民活動〈交流〉フェスタ 2018 報告

縁側でつながる ～ひと×まち×活動～



「市民活動〈交流〉フェスタ 2018」を、昨年 12 月 8 日(土)に、稲城市地域振興プラザで開催しました。

従来行ってきた「市民活動フォーラム」を今回は「市民活動〈交流〉フェスタ」に改称、内容もフォーラムがテーマを掲げて、それについてみんなで話し合い、考え合うというものに対し、参加者同士が飲み食いしながら、気楽に話しあい、楽しく交流するというものにしました。

ただし本当のネライは、そのことで参加者同士の繋がりを推し進め、今後の市民活動の活性化に結びつけることにありました。従って、途中で次のような「インタビュータイム」や「自己紹介タイム」を設けるなど、進行にあたっては工夫を凝らしました。

① **インタビュータイム**…サポートセンターに登録されている団体の中から次の 7 団体の方に登壇していただき、会を立ち上げた動機や活動してみでの感想、今後に向けた思いなどをインタビュー形式で語ってもらう時間。

〈いなぎ認知症家族の会「オレンジ i」〉〈NPO 法人東京稲城里山義塾〉〈いなぎコミュニティビジネスクラブ〉〈YOSAKOI ソーラン いなぎ藍の風〉〈心育(ここいく)稲城〉〈乙奴連(おどれん)〉〈NPO 法人市民

活動サポートセンターいなぎ)

② **自己紹介タイム**…参加者同士が、お互いにアピールし意見交換をし、繋がり合う時間。

市民活動のパッチワーク

市民活動は、団体同士がパッチワークのように繋がった時に、さらに大きな力になるとよくいわれます。私たちはふだん、それぞれの団体の活動範囲の中で、その活動を活性化しようと頑張っています。しかし、時には他の団体と繋がって一緒に行動してみると、思わぬ化学反応が起き、パッチワークのようないきいきとした模様を描き出すことができるからです。

現在サポートセンターには 90 を超える市民活動団体が登録されています。しかし、お互いに交流したり、助け合ったりすることは、さほど多くはありません。

そこで、それらの団体同士、団体に所属する市民同士が日常的に繋がり、刺激し合い、切磋琢磨することで、何か新しい動きを生み出すことができるのではないかと期待をもって開催したのが、このフェスタでした。

今回が第 1 回目でしたので、その反省も踏まえてさらにブラッシュアップし、どのように成長させていくか楽しみです。





多世代で古き佳き地域を守る坂浜地区

かつて稲城市域の4分の1を占めていたという坂浜地区。豊かな自然のなかで世代や地域を越えた人々の交流が育まれています。今回は、季節の行事を中心に、長峰や若葉台の方々も加わって行われている坂浜地区の活動をご紹介します。



神社はコミュニティの要

「福は～内！ 鬼は～外！」。子どもたちの声が元気に響き、福豆がまかれると境内に集まった人たちから歓声が上がります。坂浜地区の鎮守社・天満神社の節分祭です。

天満神社では毎年、稲城第二小学校の児童を中心に、人生初の年男・年女を迎えた小学6年生が豆まきを行い、普段は肅然とした鎮守の杜も、この日は地域の子どもをはじめ多くの人で賑わいます。

元禄7（1694）年に創建された天満神社では、節分のほかにも正月の歳旦祭や秋の例大祭、七五三など子どもから大人まで地域住民が集まる行事があります。近年では坂浜地区だけでなく若葉台や長峰といったニュータウン地区の住民も訪れ、新年の初詣に長い行列ができるようになったり、3年ほど前からは一時期途絶えていた例大祭での大人神輿が復活して祭りを盛り上げるなど、地区を越えた交流の場として愛されています。

「神社の奉賛会も若い年代の人たちが一生懸命やってくれているので、うまくバトンタッチしていけたらいいと思っています。これからも長峰や若葉台の人たちも含めて、



仲良くやっていきたい」と微笑む天満神社奉賛会の上原健次会長。これには、長峰と若葉台の青少年育成地区委員会と良好な関係が築けていることも大きいようです。



坂浜・長峰・若葉台が力を合わせ

坂浜地区と長峰・若葉台地区の協力により行われる新年の一大行事が、稲城市で最も大きい櫓が建つといわれる塞



稲城市最大といわれる塞の神が燃え上がる様は迫力満点



桃の節句には体験学習館でひな人形の展示



炎が治ったら子ども達のお待ちかね、まゆ玉の時間



初夏の青空を多数の鯉のぼりが悠然と舞います

の神です。この伝統行事は青少年育成坂浜地区委員会・坂浜体育振興会・青少年成長峰地区委員会・青少年育成若葉台地区委員会の共催により、毎年成人の日に行われます。

前々日のまゆ玉づくり（まゆ玉を3個差した篠竹を750本！）から始まり、前日の塞の神づくり（櫓建て）・前夜祭（子どもたちが地域の先輩方から塞の神の歴史や地域の昔の話を伺う）と、3日間をかけて、地域の小学生・中学生、自治会や消防第5・第8分団、地域の事業所など地域が一致協力して開催され、600人以上の人が新年の無病息災を祈ります。

当日は、塞の神のご神体「せいのかみ」を子ども達で櫓に安置することから始まり、銅鑼の音とともに点火、燃えあがる炎が治まったところでお楽しみのみゆ玉を火で炙って食べるところまで、子どもも大人も伝統の行事を楽しんでいました。

長峰も若葉台も、かつては坂浜地区の一部でしたが、若葉台地区のまちびらきから20年、土地の姿や住む人は変わっても、同じ地域の仲間としてのDNAは変わらずに残っているようです。



自然に親しみ 季節を楽しむ

鶴川街道に架かる弁天橋の西側から若葉台へ向かう上谷

と戸川の周辺は田畑や竹林、屋敷林などの風景が残っています。その環境を活かした自然観察や水遊びができる親水公園として、上谷戸親水公園が整備され、その中核施設の上谷戸緑地体験学習館が平成18年にオープンしました。体験学習館の管理・運営は坂浜自治会が市から委託を受け、自治会の理事経験者などで組織される「水車の会」が実務にあたっています。

上谷戸川の両岸は自然石を積み重ねた護岸にして昆虫や小動物、植物の生息空間に配慮し、公園には野菜やいも類の農業体験ができる畑、かつて上谷戸川や三沢川流域に見られた精米に用いる水車を復元した水車小屋、自然散策路などがあり、4月には竹林での竹の子掘り体験、5月の鯉のぼり掲揚、11月のさつま芋・里芋掘り体験や収穫祭等を行っています。体験学習館では、3月のひな人形展や桜もち作り体験、5月の端午の節句、5月人形展、柏餅作り体験、11月の写真展など、水車の会やボランティアの皆さんにより、里山の暮らしを体験したり自然に触れられるイベントが行われています。

また、水田や畑が多く残っていた頃にはよく見られたホタルを復活させようと、地元有志がホタルの会を結成し、毎年初夏にホタルが飛び交う光景を楽しむ夕べを開催し、市内外から多くの方が訪れる年中行事となっています。

「ホタルの会」は、上谷戸川が自然豊かな公園として整備



コミュニティのもう一つの要となるほど、稲城二小と坂浜の皆さんは強くつながっています。毎年、5年生が1年間行う稲作体験を指導するほか、全学年が何らかの形で水田に関わり、地域の大人の指導を受けます。「地域の方々が、自分たちの学校だという意識で、二小をより良くしていこう、地域とつないでいこうと関わってくださいます」と、学校側も喜んでいます

されたので、昔のようにホタルを飛ばしたいという有志の願いから始まりました。当初はみんな自費で幼虫を買っ

たり養殖の方法を勉強しました」(坂浜自治会の榎本勝美会長)。最初の年は50匹ほどだったホタルは、最近では200～300匹が確認され、初夏の夜空に光跡を描いています。秋の収穫祭では、翌年のホタルの幼虫を買うために稲城二小の子ども達がポップコーンやヘチマたわしを作って販売し、収益をホタルの会へ寄付しているそうです。「坂浜・若葉台地区だけでなく、広く稲城市の観光資源として、多くの人に見に来ていただけたら嬉しいです」(榎本会長)。



子どもの参加が大人の力に

昔ながらの風土を色濃く残した地域とニュータウン地区が、そして子どもから高齢の方までが、これほど仲良く融和している地域は珍しいのではないのでしょうか。

坂浜自治会の榎本会長は「子どもたちの世代に、この地域の良い伝統や年中行事を伝えて、残していきたい。そのため、お祭りなども『地域の行事』という意識で開催しています。子ども達が地域への意識を持って行事に参加してくれることが私たちの継続する力にもなりますので、これからも楽しみながら続けていきたいと思えます」と、こやかに結んでくれました。

(文責：種田匡延)

おしゃします

東京稲城里山義塾

「ここを訪れた人が和めて憩える、自然の中で子どもたちが伸び伸びと遊べる、家族で楽しめる場を作りたい」。そんな思いを抱いて、南山の自然が残されたエリアに「大人の遊び場」を作っているのが、東京稲城里山義塾です。

日本人の生活様式が変わって里山の資源が利用されなくなったことで、里山の山林は荒廃が進みました。そこに間伐や下草刈りなど人の手を加えることで、里山を再生し、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいくため、今の時代に合った21世紀型の活用方法を模索・実践していこうと、代表の宇津木敏さんら3人が山林の一部1,014m²を購入、「東京稲城里山義塾」を2017年1月に設立しました(同年6月に東京都からNPO法人認証)。

主な活動内容は、①下草刈りや樹木の間伐等の継続的な実施により豊かな自然を体感できる空間創り、②間伐材を利用したキノコ栽培や炭焼き、南山の粘土を使った土器作りなど里山の資源を活用したワークショップの実施、③子どもから大人まで広く一般市民を対象とした里山での作業体験や遊び体験会の開催などです。昨年来ワークショップ形式でログハウスを建てていることから、市



内の青年会議所や親父の会をはじめとする若い年代の人たちも多くかかわるようになり、今後は週末の定期活動日を増やしたり、「稲城の里山のお土産」づくりを考えるなど、構想が膨らんでいます。

「畑の野菜や間伐材など里山の資源を利活用できれば、色々な人が集まるようになり、地域の活性化につながる仕事ができるのではないかと考えています。里山の資源を活用していくことで、自然環境を守ることにともなうと思います」。楽しみながら里山の自然を守りつつ、地域活性化のビジネスにもつなげていこうと取り組む「東京稲城里山義塾」です。

○問い合わせ先：代表・宇津木さん

e-mail utsugi_sk@lime.plala.or.jp